もっと知りたい！クルマのこと

CARLIFE

〈発行所〉アフターマーケットサプライヤー活性化委員会

AACかわら版
カーライフ

Vol. 26
2025 July
TAKE FREE!

［巻頭特集］

楽しい夏がやってきた！

夏の行楽＆ドライブ

カーオーナーとして知っておきたいコト

Car Owners Eye［カーオーナーズ・アイ］

自動車アフターマーケットのルール変更を正しく知る

訪問特定整備

雹（ひょう）によるクルマの被害多発!

雹害対策最前線

［クルマの豆知識］

夏場は特に要注意! ETCカード挿しっぱなしにしてませんか?

夏の行楽＆ドライブ

カーオーナーとして知っておきたいコト

各地で梅雨明けが発表され、いよいよ本格的な夏がやってきた。
海に山にへと楽しい夏休みの計画を立てる前に、その相棒となる愛車のメンテナンスは忘れずにしておきたい。
特にタイヤなどは空気圧をチェックしておかないと、長距離ドライブではパンクなど含め、トラブルに見舞われやすくなる。
トラブルの際の車載ツールの見直しなども含め、これらのメンテナンスをしっかりした上で、
今注目の車載エンタメツールなども活用し、楽しく夏のカーライフをお過ごし頂ければと思う。

高速道路ではタイヤの空気圧不足＆トラブルに要注意!

JAFの2023年度お盆シーズン（8月11日～16日）のロードサービス救援データによると、救援件数は四輪・二輪合わせて43,665件。そのうち、一般道路の出動理由TOP3は、過放電バッテリーが29.28%、タイヤのパンク、バースト、エアー圧不足が21.19%、破損／劣化バッテリーが8.02%、落輪・落込が5.82%と続く。一般道路においてはバッテリー、タイヤ関係のトラブルが上位4位までを占め、その割合は実に約63%にも及ぶ。一方、高速道路における出動理由ではタイヤのパンク、バースト、エアー圧不足が37.40%と高い割合を示している（下表参照）。

JAFのデータを見ても分かる通り、高速道路においてはタイヤのトラブルが突出して多い。特にタイヤについてチェックすべきは「空気圧」と「タイヤの減り」である。タイヤには適正空気圧が設定されており、空気圧が高すぎると、センター部分が大きく張るため、センター部分が減りやすくなる。また空気圧が低い場合は、ショルダー（端）部分が早く減る傾向がある。タイヤ内部に空気が張っていないのでタイヤが潰れ、ショルダー（端）部分に負荷がかかるのだ。ユーザーがタイヤの空気圧を自分でチェックする場合、クルマの運転席側のドアを開けると、そのドアの内側部分に表示があることが多い（車種により場所が違う場合もあり）ので、自分の愛車を確認してみよう。またクルマのカタログにも記載がある。自分で分からなければ整備工場などにプロに確認してもらい、長距離ドライブの前に適正空気圧に調整してもらうのも1つの手だ。

ショルダー摩耗

▶空気圧が低すぎる

センター摩耗

▶空気圧が高すぎる

片側摩耗

▶ミニバンのように重い車
▶アライメントが不適正

タイヤは適正空気圧を保たないと、タイヤの接地形状、つまりタイヤが一番性能を発揮できる形にならないということを知っておきたい。

お盆を利用して遠方の実家への帰省や、家族での旅行など、普段に比べ長距離の運転をするドライバーも増えることから、普段のメンテナンスを怠っていると、思わぬトラブルに遭遇する可能性も高くなる。特にタイヤについては大きな事故にも繋がりやすいため、普段からのチェックを習慣にしておこう。

■JAFロードサービス 主な出動理由TOP10

一般道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	過放電バッテリー	12,218	29.28
2	タイヤのパンク、バースト、エアー圧不足	8,844	21.19
3	破損/劣化バッテリー	3,346	8.02
4	落輪・落込	2,430	5.82
5	キー閉じ込み	1,891	4.53
6	事故	1,427	3.42
7	発電機/充電回路	1,134	2.72
8	燃料切れ	891	2.14
9	スタータモータ	504	1.21
9	ハンドルロック・キー作動機構	504	1.21

高速道路

順位	故障内容	件数	構成比
1	タイヤのパンク、バースト、エアー圧不足	723	37.40
2	燃料切れ	162	8.38
3	事故	142	7.35
4	過放電バッテリー	84	4.35
5	発電機/充電回路	51	2.64
6	破損/劣化バッテリー	36	1.86
7	オートマチックミッション	24	1.24
8	キー閉じ込み	23	1.19
8	冷却水不足	23	1.19
10	ベルト駆動機器・プーリーのステー類	21	1.09

データ出典：JAF「ロードサービス救援データ」（2023年度：シーズン別・お盆）より

今、注目の車載エンタメツールとは?

クルマの価値の変化に伴い、車内で楽しめるエンタメ領域が広がりつつある。例えばドライブ中の車内でエンタメ動画などを楽しむという方法も手軽になってきている。その方法の1つに、純正ディスプレイの活用がある。例えば「OTTO CAST（オットキャスト）」のような機器を使えば、純正のナビ ゲーションンやディスプレイオーディオを、その機能は生かしつつ、スマホのように好みのアプリをダウンロードして使用できるようになり、YouTubeなどの動画ストリーミングアプリや、Google Mapなどのナビアプリなどの使用なども可能となる。

製品の起動は、付属のUSBケーブルを車両のUSBポートに接続するだけとシンプルだが、Wi-Fi機能がないため、スマートフォンやポケットWiFi等の接続環境を確保する必要はある。ただ、取り付け自体は手軽に行えるため、特別な工賃などは必要ないのも特徴のひとつだ。また、この製品を装着すると、いわゆる“テレビキャンセラー”を装着することなく、走行時のアプリを使った動画視聴やナビの操作が可能になる（※）。

昨年10月から本格運用されたOBD検査において、データリンクコネクタへ接続したテレビキャンセラーなどにDTC検出の報告もあることから、それらに関与しないという点で、ユーザーにとっては安心と言えるのではないだろうか。

OTTO CASTのような商品はあくまで一例だが、移動中のエンタメ性を向上できる製品は今後さらにニーズが増していくのではないだろうか。様々な製品が登場してくる中で、製品の特徴を理解し、正しく使用することで車載エンタメツールの充実を図って頂ければと思う。

※走行時にAV機器に表示された画像や動画を運転者が注視したり、ナビ操作をすることは道路交通法で禁じられているため、視聴や操作は必ず同乗者が行う必要がある。

新型!オットキャスト スムーズでパワフル&プレミアム
Ottocast OttoAibox P3
✓ Carplay 音楽再生・ナビ・通話など
✓ OttoAibox P3 は多様な互換性
✓ カーナビがスマホの画面になる
✓ モバイルルーター機能搭載
特設サイトはコチラ
DAIWA 大和産業株式会社

忘れずにチェックしておきたい緊急時の車載グッズ

高速道路上などで何らかの原因により、クルマが立ち往生してしまった時、トラブルを後続車に伝えなければならないことがある。その際に必要となるのが「三角表示板」や「発炎筒」だ。三角表示板に車載義務は無いのだが、高速道路上でクルマを停止させる場合には、表示義務がある。この表示義務を怠った場合は「故障車両表示義務違反」となり、反則金と違反点数の罰則があるので注意したい。また停止表示器材としては、三角表示板の表示に加え「停止表示灯」などもあると、さらに後続車に緊急事態を伝えやすい。最近では視認性に優れたものや、車のルーフに簡単に設置できるものなどが販売されているので、いざとい う時の安全確保のため、ぜひ車載しておきたい。一方の発炎筒には、三角表示板と違い、車載義務があるため、クルマには必ず装備されていなければならず、無ければ車検には通らない。また発炎筒には、4年という有効期限があることも知っておきたい。愛車に搭載されている発炎筒の有効期限を確認し、いざという時に使えないということがないように、有効期限が切れているようなら交換しておこう。

車載義務と有効期限がある発炎筒

また近年、多く発生しているゲリラ豪雨などにより、クルマが水没してしまうと水圧によりドアが開かなくなることが多い。窓が開けられればそこから脱出も可能だが、それも不可能な場合、ガラスを割って脱出する必要がある。そんな時に役立つツールが「車用脱出ハンマー」だ。ちなみにハンマーを使ってガラスを割る際に知っておきたいのが、フロントガラスではなく、サイドガラスを割るようにするということ。フロントガラスは、ある程度の衝撃があっても飛散せずにヒビが入るだけの加工がされており、基本的には緊急脱出用ハンマーでも割れないので注意したい。

万が一のトラブルに…
備えて安心！
長距離ドライブの必需品！

PHILIPS
製造元：
アルティノンモーションジャパン

突然のバッテリー上がりに…
ポータブルジャンプスターター
品番：JS7310X1
●ガソリン車 / ディーゼル車対応（12V）
●大容量バッテリーで、満充電時 40 回始動可能
●−20℃の低温でも動作可能
●大型インジケータ搭載で操作情報を表示
●ポータブルバッテリーとしても使用可能

事故や水害被害の備えに…
ブレイクハンマー 品番：634
●ベルトカッターと脱出用ハンマーを一体化！
●軽量で誰にでも扱い易いオリジナル設計
●JIS 規格適合品
●超硬金属のハンマーヘッド
製造元：大橋産業 BAL OHASHI

パンク等のタイヤトラブル時に…
パンク補修 KIT 品番：831
●ラジアルタイヤ、バイアスタイヤの完全修理
●加硫接着でタイヤと修理材を一体化！

エアーコンプレッサー
品番：525
●自動停止機能付（設定値にて自動停止）
●圧力単位切替え可能（kPa・PSI・kg/cm2）
●最大圧力 450kPa
製造元：大橋産業 BAL OHASHI

緊急停止時の三角表示板 / 発炎筒の代わりに…
パープルセーバーPRO NEW!
品番：6912
●三角表示板の代用品として設置可能な道交法規則適合品
●LED 3 灯採用し、照射角 120° の特殊広角レンズで高輝度発光
●背面マグネット付でミニバンからトラックまで幅広い車種に対応

非常信号灯 品番：6906
●車検対応（国土交通省 保安基準適合品）
●スイッチ 1 つで懐中電灯モードと簡単切替え
●夜間 200m 先からも認識できる視認性
製造元：エーモン amon

車載用 緊急保安用品はエンパイヤ自動車にお任せ下さい！

エンパイヤ自動車株式会社
本社：〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-23-1
お問合せは最寄りの弊社 各営業所まで
アクセスはコチラ▶
URL：https://www.empire.co.jp/

忘れずにチェックしておきたい緊急時の車載グッズ

湿度が上がる梅雨の時期に気になるのが、車室内の衛生対策だ。特にエアコンのカビなどは早めに手を打たないと不快なニオイが発生するなど実害を及ぼす可能性がある。なお、エアコンの臭いの主な原因となっているカビの温床として知っておきたい箇所が「エアコンフィルター」と「エバポレータ」だ。特にエバポレータが原因の場合はなかなか厄介なのだ。エバポレータは、カーエアコンの心臓部で、車内に送る空気を冷やす役割がある。このため、冷却時に水滴の付着が避けられず、カビやすくホコリなども溜まりやすいので、年月が経つに連れて悪臭の温床となることが多い。また設置場所が車種によって異なるため、エアコンフィルターのように取り外しが簡単ではない。エバポレータの洗浄には、エバポレーター専用のクリーナーを使う方法から、分解して洗浄するという手段まで様々な対応があるが、分解洗浄の場合は、作業費が高額になり時間も掛かるため、原因を突き止めた上で対処療法ではなく、不快の原因を根本から取り除く上でも、整備工場などに一度エアコンの点検をしっかりお願いしてみてはいかがだろう。湿度が上がる梅雨の時期に気になるのが、車室内の衛生対策だ。特にエアコンのカビなどは早めに手を打たないと不快なニオイが発生するなど実害を及ぼす可能性がある。なお、エアコンの臭いの主な原因となっているカビの温床として知っておきたい箇所が「エアコンフィルター」と「エバポレータ」だ。特にエバポレータが原因の場合はなかなか厄介なのだ。エバポレータは、カーエアコンの心臓部で、車内に送る空気を冷やす役割がある。このため、冷却時に水滴の付着が避けられず、カビやすくホコリなども溜まりやすいので、年月が経つに連れて悪臭の温床となることが多い。また設置場所が車種によって異なるため、エアコンフィルターのように取り外しが簡単ではない。エバポレータの洗浄には、エバポレーター専用のクリーナーを使う方法から、分解して洗浄するという手段まで様々な対応があるが、分解洗浄の場合は、作業費が高額になり時

Seednew®
Maintenance Tools
「シーズニュー」は
ヤマト自動車の
オリジナルブランドです

プロ品質の
スタンダードツール
工具セット
収納具
ハンドツール
パワーツール
コードレスヒートリペア
乾湿両用バキュームクリーナー
故障診断機
高圧温水洗浄機
バイクリフト

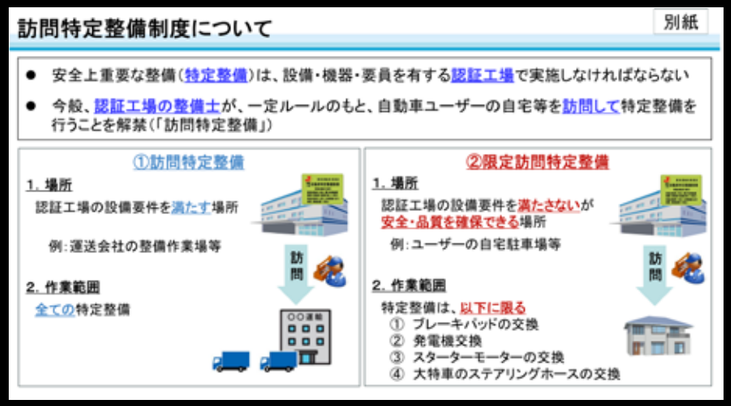
ヤマト自動車株式会社
〒553-0003 大阪府大阪市福島区福島7−13−4
ホームページ https://www.yamato-a.com/

自動車アフターマーケットのルール変更を正しく知る

訪問特定整備

自動車アフターマーケットでは、6月に大きなルール変更があった。それは“訪問特定整備制度の創設”だ。
この言葉をだけを聞くと、いわゆる“出張整備”が解禁となり、
自宅や敷地内であれば自動車の整備すべてができるようになると
誤解しがちだが、それは大きな間違い。適用条件などが細かく定められた今回のルール改正は、
規制緩和というよりむしろ、曖昧だったルールが厳格化されたと言っても良い。
そこで今回はこのルール変更を正しくお伝えしたいと思う。

「訪問特定整備」と「限定訪問特定整備」



画像出典：国土交通省　自動車の「訪問特定整備」制度を新設します／報道発表資料別紙より

今回の訪問特定整備制度は、一般ユーザーや運送事業者、リース・レンタカー事業者などが、車両を整備工場に持ち込む手間を省く「訪問整備」の需要に応えるものとされているものの、コンプライアンス遵守や整備士の安全確保などの観点から、事業者に求められる要件や行政処分の内容は非常に厳しいものになっている。

そもそも訪問特定整備には、基準を満たす設備を設置した場所において特定整備を行う「**訪問特定整備**」と、安全性の確保及び公害の防止、その他の環境の保全を図ることのできる場所において**一部の**特定整備を行う「**限定訪問特定整備**」の2つがある。この中でも特に「限定訪問特定整備」は行える作業が限定的であり、前述の通り、規制が緩和されたというよりも、むしろ強化された印象が強い。具体的には例えば、**作業範囲がブレーキパッド、発電機、スターターモーター、大特車のステアリングホースの交換などに限られている。**

また訪問特定整備の主なルールには、依頼者への説明、訪問する整備士への指示等は、派遣元の認証工場の整備主任者が行うことや、料金の内訳を示すこと、訪問する整備士のリストをメールで運輸支局へ届け出ること、訪問可能な範囲は同一の都道府県内または自動車により概ね1時間以内と細かく規定されている。

なお、前述の訪問特定整備制度の創設等に伴い「自動車整備事業者に対する行政処分等の基準の見直し」も行われる予定だ。改正概要の4つのうち、訪問特定整備に関するものは1つで、訪問特定整備に関する24項目の具体的な違反事例と違反点数などが処分基準に追加される見込みだ。

自動車業界全体の信頼が失墜している現在、コンプライアンス遵守はこれまで以上に重要な要素となる。まずは正しい情報をしっかり理解しておくことが何より重要である。なお国土交通省では、訪問特定整備制度に関するQ&Aをホームページで公開している。下記リンクよりご確認頂ければと思う。

〈参考〉
国土交通省　物流・自動車局　自動車整備課
訪問特定整備等に係るQ&A

雹（ひょう）によるクルマの被害多発!

雹害対策最前線

近年、異常気象の影響からゴルフボール大の雹が降ることもあり、
クルマの窓ガラスが割れたり、ボディに傷が付くなど
日本各地で降雹による自動車被害が深刻化している。
そこで今回は、降雹による自動車被害の事前の防止策および
降雹後の修理方法などについて触れたい。

日本各地で多発する雹の被害

2025年3月24日、静岡県焼津市を中心に大気の状態が非常に不安定になり、激しい雷雨と共に直径数センチの大粒の雹が観測され、クルマや住宅に多大な被害を及ぼしたことは記憶に新しい。特にここ数年は、日本各地で同様の雹被害が多発しており、その対策が急務となっている。これら降雹の後には、整備工場に愛車が被害を受けたカーオーナーからの修理依頼が殺到するのだが、部品供給の遅延や慢性的な整備士の人手不足なども相まって、被害を受けた車両の修理が長期化することも問題となっている。

雹からクルマを守る! デジタルとアナログな雹害対策の一例

そもそも「雹」とは発達した積乱雲の上空で形成される直径5mm以上の氷塊を指す。狭い範囲に局地的かつ急に降るため、事前の雹対策はこれまで難しいとされてきた。しかし、損害保険会社各社が今、メーカーやソフト開発企業と組み、いわゆる事前アラート機能に力を入れ、被害軽減に向けた取り組みを行っている。

ソニー損害保険株式会社では、雹災による被害回避・軽減に向け、同社の自動車保険の契約者向けに、株式会社ウェザーニューズの降雹予測データを活用し、降雹のリスクが高まった際、前日の夜にメールで通知する「降雹アラートサービス」の提供を2025年5月より開始した。なお2025年9月頃からは、前日夜に加えて当日朝にも最新の気象予測情報に基づいたアラートメールの配信も予定しているそうだ。

画像出典:ソニー損害保険株式会社
ニュースリリース「降雹（ひょう）アラートサービス」の提供開始」より引用

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社では、エーオングループジャパン株式会社、横浜国立大学の産学共同研究から誕生した、台風・豪雨・地震による被災建物数を予測し、一般公開するウェブサイト「cmap（シーマップ）」のアプリ内に降雹アラート機能を2024年6月から実装、ゲリラ豪雨アラートと併せて提供している。また株式会社AUTOLABと業務提携を結び、同社の紹介顧客を対象に、雹による突然の強い衝撃にも耐えられる、約10mmの極厚5層構造を採用した極厚雹対策車両用ボディカバーの特別価格での提供も2025年4月24日から開始している。

Cmapアプリ
降雹アラート紹介動画

雹対策車両用ボディカバー

雹害に遭ってしまったら… 損傷に合わせた修理方法を選ぶべし

事前アラートや防止カバーを駆使しても、100%被害を防げるとは限らない。実際に愛車が雹の被害に遭った場合の修理方法は、損傷の度合いによって異なってくる。雹による損傷で用いられることが多い修理方法には、主に「デントリペア」「鈑金塗装」「パーツ交換」の3種類がある。「デントリペア」は、へこんだ部分だけを元の状態に修復する技術でクルマにできたヘコみを鈑金塗装せずに、裏から特殊工具で押し出して修復する。雹害を受けたボディを修復するのに適しているとされ、その場合は押し出しだけでなく、ボディから引っ張って修復する技術も生まれている。ただし、修理できるヘコミの大きさや深さは職人の技術によって大きく異なることには注意したい。鈑金塗装はへこんだ部分をパテなどで埋めたうえで再塗装を施したり、パーツを叩いて加工することで元通りの状態に修復する修理方法で、デントリペアよりも対応可能な範囲は広い。鈑金塗装でも対応できない大きな損傷や、鈑金修理が不可能な素材が使われている車の場合はパーツの交換が必要となる。

デントリペアのイメージ

AACかわら版 CAR LIFE No.26 2025年7月号 TAKE FREE!

クルマの豆知識

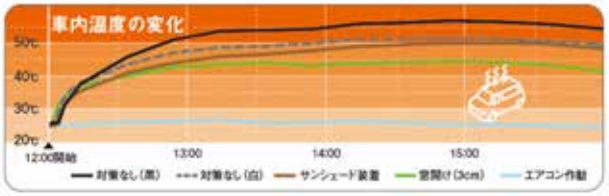
夏場は特に要注意！

ETCカード“挿しっぱなし”にしてませんか？

いよいよ本格的な夏がやってきたが、真夏の車内は、50度以上の高温となることも珍しくなく、熱に強くないETCカードは、車載器に挿しっぱなしにしておくとエラーが起きやすくなる。そこで本稿では、夏場に気を付けたいETCカードの取り扱いについて触れたい。

真夏のダッシュボード周りは約80度近くになることも…

JAFが以前行った「炎天下の車内温度の変化」に関する調査によると、気温35度の日中、12時から4時間駐車した車の車内温度を測定したところ、サンシェードや窓開け、エアコン作動などの対策をしなかった車両の車内温度は最高で57度になり、さらにダッシュボード付近では最高79度にまで上昇したという。ここまで高温になると、スマホは一部の機能が使用不能になり、スプレー缶やライター等は破裂の危険性も出てくる（下部画像参照）。当然、人間の生命にも危険を及ぼすレベルの気温となっていることは十分にご理解頂けるかと思う。



	車内最高温度	車内平均温度	ダッシュボード最高温度
対策なし（黒）	57℃	51℃	79℃
対策なし（白）	52℃	47℃	74℃
サンシェード装着	50℃	45℃	52℃
窓開け（3cm）	45℃	42℃	75℃
エアコン作動	27℃	26℃	61℃

〈画像出典〉：JAFユーザーテスト「炎天下の車内温度の変化」より
温度計測器を用いて、各車両の車内温度の変化を測定した結果

高温での使用も想定されている車載器と熱に弱いETCカード

ちなみに、ETCの車載器自体は高温になる車内への取り付けをある程度想定しているため、高温となる真夏の車内でも基本的には問題なく使用できるが、ETCカード自体の耐熱温度は通常のクレジットカードなどと同じく45度~50度ほどと言われているため、温度が高い車内の車載器に挿しっぱなしにしていると、エラーが起きやすくなる。実際にETCカードの有効期限内かつ挿入の向きも正常でありながら、料金所のゲートが開かなかったという事例が報告されているが、これはETCシステム自体の故障ではなく、ETCカードの熱破損であるケースが夏場では特に多いことを知っておきたい。特にETCカードのICチップ自体は、熱に弱いということも併せて知っておくべきだろう。

なお、近年の記録的な猛暑により、車載器が耐えられる想定を超える気温になることも増えつつあり、車載器についても故障防止のため、設置場所を考慮する必要がある。具体的には、高温になりやすいフロントガラスやダッシュボードに設置するのではなく、直射日光を避け、熱が溜まりにくい運転席の足元などに設置することが望ましいと言われている。また直接外部から車載器やカードが見えにくいことで、盗難防止の観点から新車の純正ETC車載器はそのような場所に設置されていることが多い。

〈画像出典〉：JAFユーザーテスト「炎天下の車内温度の変化」より
高温となるダッシュボードに日用品を置いた際の状態変化を観察

車から降りる時は、ETCカードの抜き取りを忘れずに

これまで述べたように熱に弱いETCカードを、真夏の車内に挿しっぱなしにしておくリスクは高い。車内の高温対策ももちろん重要なのだが、車から降りる際は、常にETCカードを抜くことを習慣化することが大事ではないだろうか。一般財団法人ITSサービス高度化機構が運営する「ETC総合情報ポータブルサイト」でも“ETCカードはクルマを降りる際に必ず抜き取ってください”と明記されている。重大なトラブルを未然に防ぐ意味で、一瞬の手間は惜しまないでほしい。

［参考サイト］
一般財団法人ITSサービス高度化機構
▶ETC総合情報ポータルサイト
https://www.go-etc.jp/index.html

アフターマーケットサプライヤー活性化委員会（AAC）とは？

AACは、全国の有力な部品商が集まり、より高度な補修部品や関連商材の販売・提供のノウハウを勉強し、従来あまり得意としてこなかった補修部品以外の商品・サービスの研究をし、その情報をお客様にご提供するために、勉強と交流の場をベースに「さらなる高みを目指して」活動している組織です。100年に1度の大変革期にある自動車業界において、今できること、すべきことを従来の価値観に縛られずに、しっかりと推進し、業界活性化を図り、ひいては地域社会の発展に寄与すべく、活動を行っています。

「CAR LIFE」に関する
ご意見・ご感想・ご要望などをお寄せください

編集部では、今後ともコンテンツの充実に努めて参ります。皆様からの多様なご意見・ご要望を募集しております。下記メールアドレスまで、お寄せ下さい。

CAR LIFE編集部▶mail：info@aa-c.jp

〈発行所〉アフターマーケットサプライヤー活性化委員会 〈編集制作〉株式会社ジェイシーレゾナンス 〒108-0072東京都港区白金1-12-2 JC residence 2F Tel.03-5422-9446